

1 単元 「ぐんぐんそだて ～冬野菜を自分たちの力で育てよう～」

2 指導観

【こんな子どもだから】

○ 本学級の子どもたちは、1学期の「ぐんぐんそだて～夏野菜を育てよう～」の学習で、初めての野菜作りを経験した。夏野菜を育てる際には、校区にある採種場の方々をゲストティーチャーとして招き、夏野菜の育て方について教えてもらうことができた。その結果、たくさんの野菜が収穫でき、子どもたち全員が収穫の喜びを味わえた。しかし、苗を植えたり、水やりをしたりは自分たちの手ですることができたが、土作りや雑草対策、肥料やり、支柱立てについてはゲストティーチャーに行ってもらい、自分たちの力ではできていない。子どもたちからは「野菜の先生に頼りすぎたと思う」「次に育てるときは自分たちの力でがんばりたい」という反省があがった。子どもたちは、2学期にもまた野菜を育てたいという願いをもち、次は人に頼らず自分たちでがんばりたいという気持ちになってきている。

1学期にゲストティーチャーからは、割り箸とガムテープを使った害虫駆除の方法、水やりのタイミング、葉に水をかけないこと、わき芽の取り方などの知識を得ている。また、生き物を学級で飼うことになった時など、子どもたちは図書室に行き、育て方を懸命に調べる姿が見られた。

○ 本学級の子どもたちは好奇心が旺盛で、活動や体験を行うと興味をもって取り組み、素直に感動することができる。野菜に話しかけるなどして大事にしたり、ヤゴや芋虫が成虫になるまで優しく見守り、成虫になって教室から飛んでいった後にも思いを馳せたりするなど、豊かであたたかい感性をもっている。しかし、実態アンケートからは自分に自信をもてない、自分が好きになれないという姿を見取ることができた。生活や授業の中でも、自分の考えや思いをなかなか伝えられないことが多い。また、多くの子は友だちのいいところには気が付くが、自分のこととなると気付かず、成長や自分のもつ可能性についても理解できていないような発言が目立つ。

【こんな教材で】

○ 2学期にもまた野菜を育てたい、次は自分の力でがんばりたいという子どもたちの思いを果たすために、冬野菜を育てる。自分で育てたい野菜を選び、自分の力で種から世話をしたり、観察をしたりと継続的に野菜とかかわることで、愛着をもち、なんとかうまく育ててやりたいという強い願いが生まれる。そうした中、違う野菜を育てている友だち同士の交流会を数回行い、生長の様子を伝え合ったり、育て方の工夫を教え合ったりすることで、一人の気付きをみんなで共有でき、気付きが深まる、広がるということが期待できる。また、友だちから「●●君の野菜は元気で大きい」「●●さんの育て方はすごい」というように自分の野菜や育て方を肯定的に評価してもらうことで、自分のよさや可能性にも気付き、自信と意欲をもった姿に変容していくと考える。さらに野菜が育つ様子を見つめることでは「ここまで大きくできた自分」にも気付くことができる。

【こんな子どもに】

【2年生】

- 継続した世話を通して、野菜の生長の変化や生命をもっていることに気付き、自分の野菜に愛着をもち、生命を尊いと感じることのできる子ども。
- 自分の野菜の成長を願い、積極的に世話をしたり、育て方について調べたりすることのできる子ども。
- 自分と同じように友だちもがんばっていることに気付き、相手を認め、よさを見つけ、友だちの失敗を支援したり、友だちへ肯定的な言葉かけをしたりできる子ども。
- 野菜を育てていく中で友だちと交流会をしたり、成長した野菜を見たりすることで、自分のよさや可能性に気付くことのできる子ども。

【こんな方法で】

①意欲や自信をもつための活動

- 他者とのかかわりを取り入れた学習活動
 - ・ 同じ野菜を育てる子ども同士のかかわりが生まれるよう、すぐ隣同士に種をまかせるようにする。
 - ・ 1学期に世話になったゲストティーチャーに来てもらい、子どもたちの取り組みを見てもらう。
- 肯定的評価を得られるような学習活動の工夫
 - ・ 友だち同士で交流会を行い、がんばりを伝え、評価し合う。
 - ・ 毎日野菜の健康観察を行い、教師がそれを見取ることによって子どもたちの取り組みについて把握し、クラスで紹介したり、肯定的な声かけをしたりする。

②自分のよさや可能性に気付く表現活動

- 見つける、比べる、たとえるなどの学習活動の工夫。
 - ・ 継続的な栽培活動を通して、夏野菜との違い、他の野菜との違い、生長の変化などに気付かせるようにする。
 - ・ 同じ野菜を育てるグループは少人数にし、交流が生まれやすいようにする。
- 子どもの特性に合った、多様な表現活動の工夫
 - ・ 文章や絵、絵本作りなど、様々な表現方法を用いて野菜の生長を記録していく。
 - ・ 交流会では、子どもたちが自信をもって発表できる表現方法を自分で選べるようにする。
- 互いに伝え合い交流して気付きを共有し、質的に高めていく表現活動の工夫
 - ・ 交流会に向けて何をどう発表するのか、教師が子ども一人一人と相談して内容を精選する。
 - ・ 交流会は違う野菜を育てているグループで構成し、伝える喜び、認められる喜びを味わわせるようにする。

3 単元の目標

- 冬野菜の変化や成長の様子に関心をもつことができる。
- 野菜にも生命があることなど、自然の不思議さや面白さに気づき、それらを大切にしようとする。
- 自分の力で野菜を育て上げたり、したこと、見たこと、感じたこと、考えたことを表現し、交流する中で認められたりすることで、自分の成長やよさ、可能性に気付く。

4 指導計画

		学習活動と内容	教師の支援	期待できる姿
つかむ	1	○ 1学期の活動を思い出し、2学期の活動を知る。 ○ 冬に育つ野菜を調べる。	○ 野菜の本を準備し、冬野菜は何があるか、どの野菜ならば学校でも育てることができるかを伝える。 ○ 野菜とその種を準備し、虫眼鏡で種を観察したり成長した様子を見たりすることで、子どもたちに期待感をもたせるようにする。 ○ 2学期はゲストティーチャーに頼りすぎず、自分たちの力で育てようと呼びかける。	○ 夏野菜の時のように、たくさん収穫したい。 ○ 冬野菜もたくさんあるな。 ○ こんなふうに大きく育てたい。 ○ 冬野菜は、自分たちの力で育てたい。
	1	○ 自分が育てる野菜を決め、発表する。 【表現活動】 ・ どうしてその野菜を選んだのか、理由を話す。 ・ 収穫後、野菜をどうしたいか話す。 (見通しをもつ)	○ 事前に、育てた野菜をどうしたいか(誰にあげたい、どんな料理を作りたい等)を考える時間を十分につくる。また、おうちの人にも一緒に考えてもらうようお願いする。 ○ その野菜のもつ栄養にも目を向けて野菜を選べるよう助言する。 ○ 野菜を選んだ理由を聞き、肯定的な言葉かけをする。	○ おうちの人のお好きな野菜にしよう。 ○ おでんの具にするダイコンを作ろう。 ○ 体にいい野菜にしよう。 ○ 先生や友達にほめてもらえて嬉しい。
	1	○ 土作りをする。 ○ 野菜の種をまく。	○ ゲストティーチャーを招き、土作りを手伝ってもらい、その後野菜の種をま	○ 土をやわらかくするんだね。うねはすごく高いな。野菜が喜ぶんだね。

さ ぐ る	<p>3 ○成長の様子を観察しながら育てる。 【表現活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜のためにした世話の内容について記録する。 ・野菜の変化、成長の様子を絵と文で書く。 <p>(自分の育て方を振り返る) (野菜の育て方に気付く) (交流会・絵本作りの準備)</p>	<p>く。今後は本当に困ったときにだけ来てもらうことを、確認する。</p> <p>○野菜の成長を確認できるよう、観察用の野菜（ダイコン、カブなど）を教師が植えておく。</p> <p>○毎朝、野菜に何をしてあげたか、野菜はどんな気持ちだと思えるか、野菜の状態はどうかなどを記録する「野菜の健康観察」の時間をつくる。</p> <p>○観察カードを1週間ごとに書くようにし、教師は子どもが自分の取り組みの工夫やがんばりに気付くことができる言葉を書く。</p> <p>○成長の様子を写真に撮って教室に掲示し、子どもたちの関心が続いていくようにする。</p> <p>○子どもの取り組みについて朝や帰りに紹介し、意欲がもてるようにする。</p>	<p>○がんばって自分たちで育てよう。</p> <p>○今日は元気がない。水が足りないのかな。</p> <p>○わたしは野菜のために虫取りをがんばっているよ。</p> <p>○ぼくも、お友だちみたいに世話をもっとがんばろう。</p>
	<p>3 ○交流会の準備をする。</p>	<p>○友だちにわかりやすく伝えるよう、交流会で話す内容は子どもと教師とで相談しながら精選する。</p>	
1 本 時	<p>○野菜作りについて友だちと交流する。 【表現活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の世話をすることで、うまくいったこと、悩んでいることを話す。 ・調べたり、聞いたりした野菜作りのことを教える。 	<p>○毎日の野菜の健康診断から自分がどんな取り組みをしてきたかを振り返らせ、今の野菜の姿とつなげる。</p> <p>○人から聞いたことや自分で調べた野菜の育て方なども話すよう助言し、その後の栽培に生かせるようにする。</p>	<p>○自分ががんばったから大きくなったんだな。うれしいな。</p> <p>○うまく育たなかったわけがわかった。これからはもっと大事にしたい。</p> <p>○自分の野菜をほめてもらえてうれしいな。</p>

	<p>(自分の育て方を振り返り よさや可能性に気付く) (友だちの育て方のよさに 気付く)</p>	<p>○友だちと比べることで、友 だちのよさだけではなく、 自分のよさに気付いてい けるようにする。</p>	
	<p>1 ○ゲストティーチャー に相談する。 【表現活動】 ・野菜の状態を話す。 ・これまで野菜のため にした世話の内容を 話す。 ・野菜作りで分からな いこと、困っている ことを相談する。 (自分の育て方のよさに気 付き、自信をもつ) (収穫までの見通しをもつ)</p>	<p>○これまでの自分の取り組 みや、うまくいっていない ことをゲストティーチャ ーに伝える場をつくる。 ○ゲストティーチャーに、育 て方や自分の考えを認め てもらふことで、自信をつ けていけるようにする。</p>	<p>○がんばったことをほめて もらえてうれしい。 ○虫のせいだろうか。水のや りすぎかもしれない。 ○やっぱり野菜の先生はす ごい。自分もこうなりた い。</p>
深 め る	<p>1 ○野菜を収穫する。</p>	<p>○自分たちの力で育て、収穫 できたことを共に喜び、が んばりを称賛する。</p>	<p>○自分たちの力で育てるこ とができた。</p>
	<p>2 ○冬野菜作りを振り返 る。 【表現活動】 ・野菜作りを通して気 づいたこと、感じた こと、考えたことな どを出し合う。 ・野菜の成長の様子や 育て方を振り返り、絵 本にする。 ・友だち同士で、作っ た絵本の読み聞かせ をする。 (自分の育て方を振り返り、 可能性やよさに気付く) (種から収穫までを振り返 り、自然の不思議さや面 白さに気付く)</p>	<p>○野菜の成長がわかる写真 を準備しておき、野菜を一 生懸命に育ててきた自分 の成長に気付くことがで きるようにする。 ○これまでに書いた観察カ ードや野菜の健康観察を 使って、野菜の絵本を作 る。絵本は野菜の気持ちに なって自分が野菜の目線 から書くようにする。 ○野菜の気持ちになって自 分の世話を振り返ること で、自分のよさや可能性に 気付けるようにする。 ○野菜の不思議さや生命の 力強さに気付かせ、それら を愛おしく思えるように する。</p>	<p>○うまく育てられた自分は すごい。 ○あまり育たなかったけど がんばったな。</p>

5 本時

平成21年11月18日(水) 2年生 教室

6 本時の目標

- 自分の野菜の生長や野菜のためにした世話を振り返り、友だちに伝えることができる。
- 友だちの野菜や世話のよさに気付き、肯定的な言葉で伝えることができる。
- 友だちから自分の野菜や世話の工夫を認めてもらうことで、ここまで育てることができた自分のがんばりや、これから大きくておいしい野菜にしていけそうだという自分の可能性に気付く。

7 本時指導の考え方

子どもたちはこれまでに種から野菜を育て、名前をつけるなどして愛着をもち、野菜のために様々な工夫をし、自分の力で世話をしてきた。その中で、育った自分の野菜を見てほしい、自分のがんばりを知ってほしい、認めてほしいという思いや、どうしてもうまくいかない悩み、これからの野菜作りへの不安などをもってきていることが考えられる。

そこで、本時は違う野菜を育てている友だち同士で集まり、交流会を行う。交流会では、自分の野菜の生長の様子を友だちと紹介し合ったり、これまでに自分がしてきた世話やその中で生まれた悩みについて伝え合ったりする活動を行う。相互に表現することで、一人の気付きがみんなに伝わり、友だちの気付きに共鳴したり、友だちが共感してくれたりする。そうすることで、自分だけでは無自覚だった気付きを自覚したり、自分の気付きが価値あるものだと分かたり、友だちの話から自分の悩みが解消され、その後の野菜作りの見通しをもてるようになることが期待できる。

また、表現することで相手からの評価を得ることができ、自分の活動を振り返ることができる。さらに、その友だちからの評価が「あなたのダイコンは大きくて元気だね」「そんな世話思いつかなかった。自分もまねしたいな」というような肯定的なものであれば、自分の野菜や世話を認めてもらえた喜びを味わい、自分への自信や次への意欲につながっていくと考える。

そのような肯定的な評価が得られるようにするために、交流会では表現したことに対して友だちから感想を言ってもらう時間をつくる。また、感想の視点をあらかじめ提示し、その内容を「友だちの世話でまねしたいこと」など、子どもたちの肯定的な言葉を引き出すようなものにする。表現する内容についても、聞き手が話したことをしっかり理解でき、よさが伝わるようにする。そのために、それまでに書いてきた野菜の健康観察や観察カード等を使って相手に伝える内容を教師と子どもが相談する中で精選していきたい。

8 準備

【子ども】 野菜の健康観察、観察カード、自分が調べた野菜作りの本やプリント等

【教師】 野菜の写真、交流会の流れを拡大した紙、感想の視点を拡大した紙、野菜の本

9 本時の展開

学習内容	指導上の留意点
1 本時のめあてをもつ。 自分の野菜やお世話の自慢と悩み事をお友だちと伝え合おう。	○授業が始まる前に場の設定をしておく。

2 グループごとに交流をする。

(1) 写真や資料を見せながら自分の野菜作りについて話す。

○ 話す内容

- ・自分の野菜の名前
- ・今の野菜の様子（健康状態，成長）
- ・自分のこれまでにした世話について
- ・これからしようと思っていること
- ・野菜作りで困っていること

(2) 友だちから感想を言ってもらおう。

○ 感想の視点

- ・いいところ→野菜のいいところ
世話のいいところ
発表のいいところ
- ・初めて知ったこと
- ・まねしたいこと
- ・なやみごとへのアドバイス

(3) 次の人に交代し，グループの全員に回るまで交流を続ける。

3 今日の学習を振り返る。

- 今日の学習で役に立ったこと
- 友だちの表現のよさ
 - ・表現した内容
 - ・表現の仕方

○ 1つのグループが大きくなりすぎないようにする。

○ 表現活動を行う際，写真が活用できるように一人一人の野菜の写真を用意しておく。写真はまわりの土の様子などもわかる，できるだけ大きなものを選んでおく。

○ 教師は各グループを回り，自分の世話の工夫をうまく言えていない子にはその子の取り組みをグループの子に補足して伝えるようにする。

○ 感想の視点をあらかじめ提示することで，子どもたちから肯定的評価を引き出す。

○ 交流会の終わりには実際に畑に行き，野菜の様子を見合ことで，これまで自分の野菜にしか目を向けられていなかったのを，友だちのものにも向けられるようにし，一人の野菜をみんなの宝物にしていけるようにする。

評価基準【評価方法】

※自分の野菜の生長や野菜のためにした世話を振り返り，友だちに伝えることができる。

※友だちの野菜や世話のよさに気づき，肯定的な言葉で伝えることができる。

【行動・発言・記録分析】

○ 友だちからの評価をもらったあとに，あらためて自分の活動を振り返り，自分のよさや可能性に気付いていけるようにする。

※友だちから自分の野菜や世話の工夫を認めってもらうことで，自分のよさや可能性に気付くことができる。

【行動・発言・記録分析】